

民間の活力を生み出すハード整備 ～水木しげるロード～

境港市 産業環境部 貿易観光課

1. 境港市の概要

境港市は鳥取県の西北、人口約3万7千人、面積は28.75km²のまちです。中国地方の名峰「大山」^{だいせん}から弓なりに伸びる弓浜半島の先端にあたります。三方を海に囲まれた天然の良港と日本海の豊富な魚介を背景に、日本有数の水産業のまちとして発展してきました。水産物の水揚げ量は平成4年～8年まで5年連続で日本一を記録し、現在もカニの水揚げ量は全国一を誇ります。



島根半島（松江市）から望む境港市



紅ズワイガニ

境港市の西側には、全国第5位の広さの汽水湖である中海^{なかうみ}が広がっています。中海は平成17年11月にラムサール条約に国際的に重要な湿地として登録されました。鳥取県と島根県の県境に位置する境港市は、この中海に面する市町（鳥取県米子市、島根県松江市・安来市・東出雲町）と行政・観光・経済各分野ともに連携を深めています。

境港市は米子空港と重要港湾境港^{さかいこう}を有し、山陰地方の空と海と玄関口となっております。平成13年には米子空港と韓国仁川空港を結ぶ定期航空路線が開設され、平成21年には境港と韓国東海^{とんへ}、ロシアウラジオストクを結ぶ定期貨客船イースタンドリーム号が就航しました。



日韓口定期貨客船「イースタンドリーム号」

2. 水木しげるロード整備のきっかけ

境港市は港湾整備などハード整備を展開する一方、昭和 60 年頃からは市民の「心」を充足させるような新たなまちづくり施策を模索してきました。昭和 63 年には、市の若手職員 14 人からなるまちづくりプロジェクト委員会が立ち上げられ、「緑と文化のまちづくり」が始まりました。中心市街地である商店街に並木を植えたレンガ敷きの歩道に整備しコミュニティ道路とする、あるいは市役所周辺にモニュメントを置き芸術ロードにするなど、文化的環境づくりのための様々な整備事業が計画されました。

その当時、商店街は衰退する一方でした。もともとは明治 35 年の国鉄境線(境港駅～米子駅)開通によって境港駅から市内に通じる町筋に商店が発生し、戦後も市内最大の商店街として発展してきました。しかし、交通体系の変化や郊外型大型店の進出、店主の高齢化など社会状況により活力が失われ、昭和 60 年代には空き店舗も多く、来訪者も少ないことから「犬猫通り」とさえ呼ばれたほどとなり、市民に親しまれ、楽しく語らいのできるコミュニティロードとして、住民を商店街へ誘い込むことを意図した街路整備事業がすすめられました。

コミュニティロードを整備する当初の構想では、魚や海をモチーフにしたオブジェの設置が考えられていました。例えば、船長が腰掛けている人物像や人魚などです。ただ、こうしたものは神戸など、どこの港町にもありますし、本物の海や、本物の魚を見ることが出来る境港市では、インパクトに欠けるため、ユニークかつ唯一なものを探して考案されたのが、境港市出身の漫画家水木しげる氏が描く妖怪であったのです。

「緑と文化のまちづくり」では、ハード整備事業と並行してシンポジウムなどを開催してきました。境港市出身の文化人を招き、市の魅力や故郷への思いを語り合ってもらうことによって、新たなまちづくりのヒントが得られるのではないかと狙いからです。その第一回、平成元年のフォーラムに参加していただいたのが水木しげる氏でした。氏の生まれ故郷である境港市への熱い思いと、氏が描く妖怪に感じられるノスタルジーが、現代人が求めている故郷のイメージが重なると思われ、コミュニティロード整備のモチーフに妖怪が提案されました。商店街の衰退を食い止め活性化していくためには、子ども達を呼び戻すことが必要で、子ども達が戻ればそれについて大人達も戻ってきます。「ゲゲゲの鬼太郎」は何度もテレビアニメ化され、子ども達に良く知られているキャラクターで、親世代も子どもの頃に親しんでいることから、最適と考えました。

故郷のためになるならと、市の申し出に水木しげる氏側も快諾いただき、平成 3 年、商店街の街路に水木しげる氏の漫画キャラクターをモチーフにした妖怪ブロンズ像を設置することが決定しました。

3. 水木しげるロード整備概要

平成 4 年、JR 境港駅から商店街への街路を「水木しげるロード」と命名し整備事業がスタートしました。工事は二期にわたり実施され、平成 4 年～6 年を第一期、平成 7 年～8 年を第二期とし、合計で 4 億 4000 万円の事業費で整備されました。整備事業では、商店街のアーケードや歩道の改修とともに、沿道に妖怪ブロンズ像やレリーフ・絵タイル、また、妖怪ポケットパークや公衆トイレが設置されました。財源は市債(自治省商店街等振興整備特別事業)3 億 4200 万円、宝くじ助成金 3400 万円、一般財源 6400 万円です。当時、ブロンズ像設置は市債発行の対象外でしたが、鳥取県等の協力により起債申請が認められました。しかも、その申請は、独創的試みであるということで、全国の活性化特別事業 10 数件のトップで採択されました。

第一期工事を終えた平成5年7月、除幕式が行われ、水木しげるロードがオープンしました。妖怪をテーマにしたユニークな商店街活性化であるということや、ゲゲゲの鬼太郎やねずみ男など23体の愛くるしいブロンズ像が関心呼び、テレビなどでこぞって報道されました。これらブロンズ像は、水木しげる氏のスケッチ画をもとに、鳥根大学名誉教授の彫刻家倉澤實氏に原型製作を監修いただき、御影石の台座も妖怪がまるでそこに棲んでいるかのように個々の妖怪にあわせてデザインされ、彫刻作品としても非常に完成度の高いものとなっています。そのせいか、水木しげるロードオープン後、ブロンズ像の盗難事件が起きました。このことも水木しげるロードが全国的に知れ渡った要因です。

二期工事では、ロードを800mに延長し、さらに妖怪ブロンズ像を追加し、平成8年の全線完成までに80体となりました。

第一期工事完成の翌年平成6年には、年間の観光客入り込み数は約28万人。二期工事が完了した翌年の平成9年には約46万人まで増えました。またロード沿いの商店は、鬼太郎や妖怪キャラクターをモチーフにしたグッズや食品などを開発して販売するようになりました。加えて、商店街が自発的にイベントを開催するなど、妖怪キャラクターを活かしたまちづくりを民間も積極的に展開するようになりました。



水木しげるロード全線完成式典（平成8年8月24日）



ブロンズ像 協力/©水木プロ

4. 民間で「妖怪神社」を建立

妖怪ブロンズ像80体の設置で、水木しげるロード整備事業は一応完結しました。市ではさらに総仕上げとして、水木しげる氏の妖怪マンガや妖怪文化に触れられる「水木しげる記念館」の建設を構想していましたが、財政難を理由に計画は凍結を余儀なくされました。

一方、伸び続けていた観光客入り込み数も平成9年から11年にかけて年間45万人～50万人と横ばい状態続きました。新たなハード整備が行われず、ロードの魅力が年々薄れていくことに危機感を抱いた商店街関係者たちは、民間の力でロードを発展させようと動いたのです。

平成10年4月には、水木しげるロードに面する25店舗が「水木しげるロード振興会」を設立し、より組織的に妖怪関連イベントを展開するようになりました。平成11年には水木しげるロード振興会の有志など市民18人がまちづくり会社を設立。この会社は振興会と協力して様々な妖怪関連イベントを仕掛けるとともに、新たな妖怪スポットとして、平成12年1月1日に水木しげるロードの一面に「妖怪神社」を建立しました。出雲大社の「神在月（かみありづき）」をヒントに、毎年8月を、全国から妖怪・精霊がそのふるさとする妖怪神社に集まってくる「霊在月（れいありづき）」と定め、「霊在月祭」として多彩なイベントを行うようになりました。

妖怪ブロンズ像も民間の力で増設されました。平成11年から14年にかけて6体が追加され、さらに平成16年には境港市観光協会と境港商店街連合会・水木しげるロード振興会・水木プロダクションの民間4団体で妖怪ブロンズ像設置委員会を結成し、ブロンズ像のスポンサー（1体100万円）を全国公募しました。予想を上回る応募があり、31体のスポンサーブロンズが設置されました。その結果、ロード沿いに設置した妖怪ブロンズ像は計120体まで増えました。



妖怪神社

5. 「水木しげる記念館」オープン

計画を凍結していた「水木しげる記念館」は、観光客をはじめ商店街や市民からも要望が強く、平成14年に着工し、総事業費4億8000万円で平成15年3月8日に開館しました。

記念館の開館によって水木しげるロードを訪れる人は、一気に年間85万人にまで増えました。記念館の入館者数も、開館初年度は21万4000人、二年目は少し減少したものの、三年目からは上昇に転じました。入館料収入は1億円を超え、維持管理費や人件費、著作権料などを支出しても、黒字経営です。一般的に、アニメや漫画をテーマにした記念館では、初年度以降来館者が落ちるのが常ですが、水木しげる記念館の場合は、三年目以降も来館者を増やしています。これは、イベントなどを積極的に行い、水木しげるロードの全国発信がうまくいっているからだと思います。また妖怪ブロンズ像の増設や、JR境線の観光（妖怪）路線化なども話題となり、水木しげるロードの観光客入り込みの増加に大きく影響していると思います。



水木しげる記念館

6. 公共機関や交通機関との連携

水木しげるロードのユニークなまちづくりや大きな集客効果があることをみてとった公共機関や交通機関も“妖怪のまち”化に連動してきました。

例えばJR境港駅前の警察交番やロード沿いの郵便局には妖怪の絵が飾られています。観光案内所や水木しげる記念館が妖怪ポストを設け、郵便局では妖怪イラスト入り消印を押すサービスなども実施されています。

平成17年11月からは、境港市と米子市を結ぶJR境線では妖怪にちなんだ観光路線化事業がスタート。同線は水木ロードの話題性にいち早く注目し、平成5年から車体に鬼太郎や妖怪たちを描いた「鬼太郎列車」が運行されていましたが、さらに全16駅に「鬼太郎駅（境港駅）」「こなきじじい駅」「砂かけばばあ駅」など妖怪キャラクターの愛称をつけ、その妖怪イラストが入った駅名板を設置されました。鬼太郎列車に乗りながら様々な妖怪と巡り合い、妖怪ワールドである境港市に入っていくという演出です。

平成18年1月からは、境港と隠岐諸島を結ぶフェリー航路に「鬼太郎フェリー」も登場しました。隠岐汽船の定期船フェリーの船体に「ゲゲゲの鬼太郎」のイラストが描かれ、船内の売店にも妖怪のイラストが描かれています。こうした交通機関などの妖怪キャラクターの活用の広がりが相乗効果をもたらし、さらに観光客を引きこむといった結果につながっています。



鬼太郎列車 協力／©水木プロ



鬼太郎フェリー

7. 商店街の状況

水木しげるロードの整備によって市外から多くの観光客が訪れるようになったことから、商店街は観光客を対象にした店舗などが増え、賑わいを取り戻してきました。ロードには100近い店舗がありますが、かつては空き店舗も多くありました。しかし現在では90店以上が営業されており、空き店舗ができるとすぐに新規の事業者に参加していただける状況です。今や貸し出しの意思のある空き店舗は無い状態です。また昔から商売をしている店にしても、観光客向けの業態に変えたり、従来の商売とともに、店の一部に妖怪関連のお土産物を置くケースが多く見られます。



水木しげるロードの賑わい

8. 妖怪というコンテンツの奥行きの高さ

妖怪をあえて定義すれば、民間伝承上の不可思議な力をもつ非日常的存在、超自然的存在です。古来から狩野派の「百鬼夜行図」をはじめ、絵画や文献・伝承などで様々な妖怪の存在が伝えられてきました。現在でも科学文明がどれほど発達しようと、人間は怪異なものや、闇・自然への畏怖心や恐れを抱えています。水木しげる氏は、そんな原初的・民俗的・根源的ともいえるべき世界を、愛らしいキャラクターに託して描いています。その世界は奥深く、人々に郷愁の念や現代人が忘れかけている何かを思い起こさせるパワーがあると思われま

言い換えれば、“妖怪”という古くからの文化でありながら、今日的な文化と出会ったことで、境港市は、

まちとしてオンリーワンの魅力をつくりあげてきました。

そもそも、境港市が位置する山陰は、出雲や松江、大山などがあり、古代神話や神秘的なアニミズムのイメージが強い地です。水木しげる氏が妖怪の世界に触れることになったきっかけも、境港の家にお手伝いに来ていた老婆が語る、地域に伝わるおばけ話や妖怪話でした。そんな山陰がもつ自然風土や精神風土が、妖怪をテーマにしたまちづくりに奥行きを与えています。

9. 著作権における水木プロの全面協力

通常、マンガやアニメキャラクターなどを使うと権利関係の調整が難航します。特にテレビアニメの場合は、作品の放映とともに商品化権など権利ビジネスの展開が最初から意図されていることが多いからです。

水木しげるロードの場合は、水木しげる氏側が格別の条件で市や市民に権利を提供し、キャラクターを活用しやすくしていただきました。市の広報などで水木しげる氏のキャラクターを使う場合、営利目的でなければ、基本的に無料で使用を許可してもらっています。商店が開発する関連グッズも、境港を中心として、山陰だけで売るものについては、格安の著作権使用料を設定していただいています。

その結果、数多くの妖怪グッズが登場し、キーホルダーや携帯ストラップ・ぬいぐるみ・飴・まんじゅう・せんべい・地ビールなど、多岐にわたります。境港でしか手に入らない妖怪グッズがあることも、水木しげるロードが人を引き付ける一因となっています。

10. 未完成でスタートし、今もまちは変容を続ける

水木しげるロードの成功要因のひとつは、最初から完成品をつくらなかったことにあります。市の整備自体、ロードオープン後も進められてきましたし、商店街も新たな人たちが入ってきて、個性的な店を次々と誕生させました。

ソフト事業の展開についても、民間レベルで様々なまちづくりの取り組みがなされています。水木しげるロード振興会や民間まちづくり会社のほかにも、鬼太郎音頭を作って普及活動やPR活動を行う「鬼太郎音頭保存会」など様々な組織が立ちあげられ、水木しげるロードの活性化に一役をかってきました。

またロード沿いに出店する店舗では、毎週土曜日にロード全線 800m の清掃活動を社員全員で実施されています。普段でも店の前のブロンズ像を店の方が磨いたり、地元にも観光客にも愛される水木しげるロードとなってきました。また、地元のボランティアセンターによる観光ボランティアガイドも始まっています。

境港市は、日本有数の漁港をもつことから、水木しげるロードができる以前から獲れたての新鮮な魚介類を買うために山陽・関西・四国などから観光客が訪れていました。そうした水産物の魅力と妖怪の魅力を融合させた観光客誘致も展開しています。

境港市のキャッチフレーズである「さかなと鬼太郎のまち境港市」を今後も積極的に情報発信し、商店街の元気・市民の元気の拡大に向け、取り組んでまいりたいと思います。